



こだまネット

信州大学 自然環境診断マイスター

発行:こだまフォーラム

センスオブワンダー

2008年9月13日、我が第2コース(こだまフォーラム)の修了式が行われました。

学長が式辞で引用された、センス・オブ・ワンダーの印象的な一節をここに再現し、

マイスターの基本理念として心に刻み、今後の活動の糧としましょう。

「センス・オブ・ワンダー」:レイチェル・カーソン・上遠恵子訳:1996.7 発行:新潮社

この本は、カーソン女史が、56歳(1964年)で亡くなる直前の作品です。

もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目をみはる感性」を授けてほしいとたのむでしょう。

この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤になるのです。(P23)

人間を超えた存在を認識し、おそれ、驚嘆する感性をはぐくみ強めていくことには、どのような意義があるのでしょうか。—以下二行略—

わたしはそのなかに、永続的で意義深いなにかがあると信じています。地球の美しさと神秘を感じとれる人は、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることはけっしてないでしょう。たとえ生活のなかで苦しみや心配ごとにてであったとしても、かならずや、内面的な満足感と、生きていることへの新たなよるこびに通ずる小道を見つけだすことができると信じます。(P50)

レイチェル・カーソンは、1962年に発表した「サイレント・スプリング(沈黙の春)」で、農薬の生態系に与える害、環境の汚染と破壊の実態を、世に先駆けて告発した、アメリカの海洋生態学者であり、すぐれた文学者でもありました。



もくじ

- 1.センス オブ ワンダー
- 2.佐藤先生・ごあいさつ
- 3.宮下会長(こだまフォーラム)挨拶
- 4.マイスターニュース
- 6.南信濃勉強会
- 7.第三コーススタート
- 8.地球温暖化問題その2
- 9.マイスターつぶやきコーナー 藤森聡美
- 10.行事予定・お知らせ

● 自然環境診断マイスター養成第1・2コースを終えて

佐藤利幸先生(当マイスター養成事業部長)のごあいさつ

こだまネット発刊に当たって

第二コースでは、①お互いの活動情報の交換、研究発表、各地域のイベント情報の公開、意見交換、②必要に応じたグループ活動の実施及び結果報告、③当マイスターの社会的認知度の拡大などを目的として、「こだまネット」を発刊することとしました。

まず、発刊にあたり、マイスター生みの親であり、マイスター養成・指導に多大なご尽力を賜っている佐藤先生にごあいさつとマイスターに期待することなどをお聞きいたしました。

「社会人学びなおしニーズ対応プロジェクトが採用」のニュースはまだ鮮明です。慌しくも楽しい1年間でした。気がつくとも第1コース・第2コースが修了しました。実はこのプロジェクトは4年前に大学院研究コースとして準備され、4回目の申請でした。本部面接での方針転換（「研究・教育」から「社会人学びなおし」へ）には「研究・教育」から遠く懸念をもつ先輩もおりました。「社会人でも、院生も含めれば」と気軽に方針転換しました。実はそれから「ささらほうさら」でした。「学び直しマイスター養成」から「書き直しマイスター養成」と言えるほど書き直しが続きました。小川さん・加藤先生・龍野さん・藪原さんら精力的な努力により最終書類ができました（499文字要旨）。はじめての学術論文のようでした。結果として、事業責任者（佐藤）は名譽を戴いた幸運者です。

さて開講して、さらに幸運が待っていました。20名からなる「無私」の有能な受講生でした。現役の社会人が毎週毎週、実習とレポート、みごとな作品を提出します。こちらが夢中に勉強させて頂きました。「学生に学ぶ教員」「子どもに学ぶ父母」「病人に学ぶ医師」を実感しました。なんと学長さん・副学長さんまで特別参加されたのです。16名がマイスター認定を受けました。

さて、第2コースが2008年5-8月に行われました。こんどは18名の新人が集いました。年齢層が25-72才とはば広いことが強い印象でした。第1コースと比べ、理学部全体としての取り組みがやや準備され、その分やや形式的な側面が多かったようです。安心感とともに新鮮味にかけてきます。そんななか、第2コースの幅広い年齢層の方々の団結力・多様な自主活動が目立ちました。ジャケット作成・感謝のポ-

ルペン・感謝の万年筆・感謝紙そしてこの「こだまネット」の刊行です。第1コース始まって間もなく、体調をくずされた奥原さんの再チャレンジが、第1コースメンバーとの繋がりや情報をふまえる誘導役となって頂いたようです。第2コースの個性（特徴）は第1コースの「優等長男女性」とはまた一味違う「自立次男女性」が形成されたのかも知れません。超アクティブ熟年の三浦さんの取り纏めと怪我も、第2コースの展開力を強めたようです。

「しんリンク」同窓会が「自然環境診断マイスター」の真の活動の源になり、その活動をアピールする機関紙として「こだまネット」の活躍が期待されます。佐藤は真のマイスターへの夢をもちつつ東城教員とともに顧問とさせて戴き、特別顧問として小坂理事・伊藤前学部長の就任を頂きました。現学長の小宮山先生にも、最高顧問をお願いする予定です。

この10月4・5日は「しんリンク」合同応用実習が盛大に開催されました。28名の参加がありました。受講生と修了生には自然環境の情報と自然力を理解集約して、故郷・日本・世界に発信する力があり、その素地が信州（中部自然）にはありそうです。

養成はあと1年（第3・4コース）つづきます。その修了生は80名となる見込みです。

今、信州から温暖化抑制・生物多様性保全・脱災害のための実践活躍の場を夢んでいます。仮想「自然環境診断修復ステーション」は、自然情報（図書・ビジュアル・標本・野生種子保存・自然環境計測・植栽）の6つの柱で、「自然環境再生ビックバンの核」としたいものです。（文責：佐藤）

● 第二コースの代表として こだまフォーラム宮下哲則会長挨拶

こだまネット発刊にあたり、宮下会長に今後の活動方針などを述べて頂きました。10月4.5日に遠山郷で実施された第一、第二コース合同勉強会で発表されましたが、意欲的かつ重要な内容です。ここで再度、頭に叩き込んで、今後の活動に活かしましょう。

9月13日に修了式を終え、晴れて自然環境診断マイスターの称号を頂きました。この、自然環境診断マイスター養成講座が文部科学省の厳しい審査の上、認可を受け、補助金給付の対象事業である以上、「自然環境診断マイスター」として、その称号を頂き、一員に名を連ねた以上、その日から、自覚を持って、一人立ちしなければなりません。また、たとえ、4ヶ月程度の講義、実習であったとはいえ、それだけの知識、教養、資質を身につけたと判断されたからこそ、自然環境診断マイスターとして認定されたと思います。

本来ならば、かなりの費用になるだろうこの養成講座を、補助金を頂いて、僅かな費用で受講できたことを考えれば、自然環境診断マイスターに対して、寄せられる期待の大きさ、求められる重要性にそれぞれが応えていかなければならないと自負しております。必要とされる現場に即戦力として赴き、結果を出すことが第一義であると考えております。それは、批判を厭わずに、自然環境問題に対して、自然環境診断マイスターとして、調査探求し、自らの考えで中立、公平な診断を下すことであると確信しています。

しかしながら、ご批判を甘受し、あえて私たちが冷静に判断してみますと、大学及び佐藤先生より頂いたこの貴重な5ヶ月あまりの期間で、果たして実のところ、それだけの力がついたのであるかと疑念を持たざるを得ません。メンバーの中には自然環境診断マイスターの認定を受ける以前から、既に各地の評議会、協議会などの委員として、また、研究会などの主催者として第一線で活躍されている方もおいでになります。そのような方々と、果たして一緒に肩を並べてマイスターとしてやっていくだけの裏付けされた力量、自信があるのだろうか、足元にも及ばないのではないかと、自分自身に問いかけずにはいられません。今、自然環境診断マイスターの基本理念を再び読み返して見るに付けその重さに身じろぎするばかりです。

以上の考えを踏まえ、私がこだまネットの代表を拝命した時に皆様に相談しました。結論のすべてではありませんが、ある程度の方向性を持った意見を集約しました。まずは、第4コースの方が修了されて自然環境診断マイスターのメンバーがすべ

て揃うまで、私たちには一年近くの時間があります。この時間を私たちに与えられた「アドバンテージ」としてこれからの一年間は「学習、吸収、レベルアップの一年」としたいのです。今までの養成講座を通じ、やり残したこと、消化不良に終わってしまったこと、新たに加えたいこと、その出来るだけを、自主学習として、または大学の協力を頂いて実施したいと思います。私たち「こだまネット会員」が、手を取り合い「自然環境診断マイスター」が目指す崇高な理念に一歩でも近づこう努力したいと思います。

今後の自主学習会企画

1. 霧が峰における鹿の食害の実態(11月15日実施予定)

- * 学外講師による現地視察と現地にて説明

2. 限界集落の実態と抱える問題点

- * 集団移住した限界集落の利点と問題点、その地に住まなければならない住民の方の抱える問題点と行政の関わり
- * 既にメンバーの一人がこの問題に取り組んでおり長期的な調査結果など踏まえて発表できる段階になったら、講師の方を交えて検討していく

3. 化石から学ぶ生物調査

- * 長野県における化石の発掘場所と発掘方法、発掘種からの考察
- * 化石が物語ること、化石への疑問
- * 石田先生にお願いして現場での実習、講義を企画したい

4. 地球温暖化の現状と対策(長野県出前講座)

- * 長野県出前講座講師を招いての講義
- * 戸田先生を交えての水蒸気説(樫田理論?)ディベート

5. 野尻湖ナウマンゾウ調査

- * 発掘現場に立ち会う
- * 当時の気候、地形などを探る

6. 全県水質調査

- * 会員全員で各地の同時期定点調査、長野県河川水質の把握



マイスターニュース

・9月13日:修了式

・10月4.5日:南信濃勉会

・10月11日:第三コース開校式

第二コース(こだまフォーラム)修了式

2008年9月13日、第二コースの修了式がとり行われ、18名のマイスター(全20名のうち2名はスケジュールの都合で1講座を残して留年)誕生しました。修了式後、第一回総会が行われ、今後の活動方針や情報交換が行われました。

1. 修了式:9月13日・13:00~14:30:

於:信州大学理学部 C 棟 2F 大会議室

式次第

- 一 開式のことば
- 二 認定証授与...小宮山学長より各マイスターへ
- 三 学長式辞...小宮山学長
- 四 学部長式辞...武田学部長
- 五 事業責任者式辞...戸田先生(佐藤先生代理)
- 六 修了生謝辞...竹脇マイスター
- 七 閉式のことば

2. 第一回総会:14:30~17:00

宮下哲則会長・竹脇 聡副会長・宮沢正義副会長
中野國光会計・塩原文恵会計監査
を選任

● 総会における今後の活動についての要望

瀧澤さん

- ・ 水質はテーマとしては入りやすい。
- ・ 各人が身近な地域で採水したものを持ち寄り分析することで、長野間全体の水系の汚染状況がわかる。
- ・ 場所を限定して調査するなら、特定の場所の汚染が進んでいることがわかれば、その原因究明もできる。
- ・ 複合的な要因を考察していくべき。
- ・ 個人的な興味は山岳地形(原山先生のレクチャーを受けたい)

宮澤さん(第1コース)

- ・ 自然環境診断マイスターとしては、「調査」で終わらず「診断」まで到達できそうなテーマを設定したい。(第1コースのアレチウリ)

橋住さん

- ・ 県でやっている調査と同じような水質調査をやってもあまり意味がないのでは。
- ・ 「診断」とはということをすれば「診断」なのかよくわからない。
- ・ 発表会で各人が調べたフィールドについて再度聞いてみたい。

小山さん

- ・ 水質調査を各地に散らばってやるのではなく、特定の地域に限定して(問題のありそうな地域、菅平、野辺山 etc)調査し、原因を究明したい
- ・ 飯山から野沢温泉にかけて山が真っ赤になっている。(カシノナガキクイムシの影響?)興味のある人は見に来てほしい。

西川さん

- ・ 各地から情報発信してもらったことについて参加したい。色々な分野のことに取り組んでみたい。
- ・ 一極集中で情報発信してもらいたい。

三浦さん

- ・ 地球温暖化問題について戸田先生にレクチャーをお願いしたい。
- ・ マイスター講座は北信、中信地方についての話題が多かった。中央アルプス、南アルプス沿線の動植物について専門の先生をお願いしてレクチャーを受けながら皆さんと共に調査したい。

小岩井さん

- ・ 水に関連したことに取り組みたい。

- ・ 各地の水(普通の水道水)を飲み比べてみたい。
- ・ 発表会について、もう一度聞いてみたい。
- ・ 皆さんのレポートを読んで、皆さんの考えを知りたい。

大洞さん

- ・ 長野県政出前講座が充実している。(別紙参照) これらを利用して勉強会を実施してはどうか。
- ・ 長野県全域にフィールドが広がっており、各地で研究集会等を開催してはどうか。
- ・ うわべの水質調査でなく、水生生物調査の側面からアプローチした水質診断をしたい。(県を含め、他の調査機関でも取り組みは少ない)

西澤さん

- ・ 「限界集落について」を個人的なテーマとして今後も取り組んでいきたい。
- ・ ヤマの問題、里山についても関連付けて取り組みたい。

待井さん

- ・ 石田先生のレクチャー(化石)が、まだ未消化で残っている。今後、その分野について取り組んでみたい。

山本さん

- ・ マイスター公開講座のあとに「長野県政出前講座」を設定してはどうか。
- ・ 「松本系魚川道路」の建設が予定されているが、安曇野市の大王わさび農場付近を通る可能性が高い。その地域は山岳地形等と異なった自然があり(湧水の豊富な地域)であり、工事に先立ちその地を視察し、植生調査等をしてみたい。

池田さん

- ・ 勉強会を経て将来的には、実際に起こっている環境問題(シカ、サルの問題など)をマイスターとして診断し、具体的に解消するための対策を考えるといった活動を進めていきたい。
- ・ 外来植物、帰化植物の現状把握とその対策について

中野さん

- ・ フィールド調査に出たい。いま現状でどんな問題があるのか、調査をベースにしてそこに存在する環境問題を考えていきたい。場所はどこでも、題

材は何でも良い。

- ・ 各市町村で様々な環境要素について定点観測を行なっているところが多いが、それらを持ち寄って、比較検討することもおもしろい。

塩原さん

- ・ 水質について、近所の奈良井川周辺のレタス畑、ブドウ畑と水質の関係に興味がある。

奥原さん

- ・ 水中生物まで含めた水質調査。大きな川は環境省等で行なっているであろうと思われるので、小さい支流について調査したい。
- ・ 発表会内容について、その詳細について聞いてみたい。
- ・ 長野県政出前講座の中で「森林整備」関係のものに興味がある。行政と現場の間ギャップを埋めていければ。

宮澤さん

- ・ 長野県内の様々な自然環境について勉強したい。各地の博物館を利用し、学芸員の話を知りたい。
- ・ 環境診断という側面から「何か」やってみたい。ひとつテーマを設定して全員で取り組み、発表するところまでもっていききたい。(文責 竹脇)

以上

これらのご要望、意見は、KJ法で整理しなおすと、いくつかに集約されると思われます。(編集部)

本の紹介

- ・ 「ハチドリ」のひとしずく」;監修・辻真一;2005.5
;¥1500;榊光文社;子供向け 17行のストーリーだが
哲学的な大人の本でもある
 - ・ 「生命 40 億年全史」;リチャード・フォーティ;2003.3
;¥2520;草思社;通り一遍ではない、40 億年の生命
史
 - ・ 「人類の足跡 10 万年全史」;スティーブン・オッペン
ハイマー;2007.9;榊草思社;¥2520
アフリカを出た現世人類の祖先 10 万年
の歴史
- 注:全史 2 冊は、石田先生講座の予習にどうぞ

● しんリンク・南信濃勉強会開催

2008年10月4~5日、飯田市上村・遠山郷において第一、第二コース合同の勉強会が開催されました。参加者は、マイスター28名、先生方4名(佐藤、東城、石田、伊藤の各先生)そして、学生1名でした。遠山郷の環境を満喫しつつ、小学校の廃校(木造)で、慣れないKJ法などに取り組み、診断の勉強をしました。5日の午後は、希望参加で、三浦マイスターの先導により、雨にもめげず、限界集落もびっくりの下栗の里を經由して、しらびそ高原を訪れました。以下はその概要です。

診断テーマ:「水辺や森林の有効利用診断」

小学校の廃校にて勉強会(木沢小学校)

- 10月4日(土)・・・ウロコノキノブ教えてもらいました。

1. テーマに関する情報収集のための自由散策

2. 基調講演

- ・信州大学理学部:東城幸治先生
「河川に棲む生物の個体群構造について」
- ・信州大学理学部:佐藤利幸先生
「河川環境の診断と多様性」
- ・信州大学理学部:石田 桂先生
「地球の環境変動と日本海の応答」

3. 第一コース活動報告

- ・五味マイスター:ハヶ岳勉強会について
- ・広沢マイスター:アレチウリ調査診断について

4. パネルディスカッション

テーマ:「子ども時代の自然との関わり」
 コーディネーター:佐藤先生
 パネラー:マイスター:五味・三浦・竹重
 :先生:東城・石田

5. 懇親会

・しんリンク役員の承認(敬称略)
 会長:竹重 副会長:宮下 事務局:松澤・竹脇

- 10月5日(日)

1. 自由散策

2. テーマをグループ別に KJ 法で協議、診断

3. しんリンクの今後について松澤マイスターから説明

自由参加

下栗の里經由しらびそ高原
 案内ガイド:三浦マイスター



◆ 準備、当日の運営に尽力された各マイスターの皆さん、先生方御苦労さました。三浦マイスター、現地案内御苦労さまでした。

● 第三コース・スタート 竹脇マイスターレポート

10月11日、自然環境診断マイスター・第三コースがスタートしました。開校式の様子を竹脇マイスターがレポートし、報告してくれました。何やら多彩なマイスターが増えそうです。



昨日は第3コースの開講式が行なわれ私も出席してまいりました。受講生代表の決意表明ということで、我らが小岩井さんが決意を述べられました。今年はレイチェルカーソン生誕101年とのことで、そのことを例に引かれ、「自然と調和して、自然と共に生きていきたい。」とお話されました。(小岩井さん、そういうことで良かったですか?)

新規の受講生は20名ちょうどの応募とのことでしたが、今回もやはりなかなか多様なメンバーが揃ったようです。佐藤先生の入知恵ですが、開講式が修了するやいなや一人の受講生が前に進み出て、早速メーリングリストの作成に入っていましたよ。メンバーの顔ぶれをざっと眺めたところ、私の知っている顔が4人もいらっしゃいました。もっともそのうちの2人は私がご紹介した木曾の方ですが、あとの二人のうちのお一人は、やはり木曾の方で、永井信二さんという方です。実はこの方はとんでもなく大変な方なのです。日本の、いや世界の昆虫分類学の第一人者で甲虫類が好きな人にとってはまさに「神の領域」の方だと聞いています。なんでも今の天皇陛下に昆虫の講義をされるために何度も皇居に出向かれているとのこと。こんなことを申し上げてよいかどうか分かりませんが、この方はある意味大変な変わり者で(失礼! オマエに言われたくないってか?) 現在は木曾福島で「GOKIG ENYA」というお好み焼き屋を経営されています。あるとき立ち寄ろうと思ったら、「本日は学会出席のため臨時休業」、という看板が架かってました。店の2階は標本室になっており、まだこれから命名するという標本も山のようにあるとか。ご興味のおありの方は、なにかの機会に木曾においでになったら、お立ち寄りください。ちょっと見は、変なオッサンといった感じの方ですよ。(またまた大変失礼いたしました!)

更に今回は、県外からの参加者が3名いらっしゃいました。まずお一人は富山県から参加の女性金曜日の夜はエアロビクスに通っているのでそれが終わったら松本まで飛んでくると笑顔でお話されたのが印象的でした。ちなみに今回は早朝(夜中?)に到着したので、ネットカフェで時間をつぶしてきたとのこと。ネットカフェはPCが使い放題なので、レポートはそこで作成しようかとお話には圧倒されました。

もう一人はやはり岐阜県から参加された女性。この方もたいへんアクティブな方で、熱く自然について語られている姿は圧巻でしたよ。

そのほかにも個性豊かな面々ばかりでとてもご紹介しきれません。皆さんも公開講座の折にでもお出かけになって親交を深められては

かがでしょう。

さて開講式に引き続き、さっそく講義が二つありました。

【特別講演 d】

「地質科学と自然保護」

富樫均氏(長野県環境保全研究所、主任研究員)

レポート課題

「皆さんにとっての舟石(旧牟礼村にある巨大石遺跡)を想定し、個々の知識としてよりも広い視点から自然を捉え、自然科学の暮らしへの応用といった視点で述べよ。」

【特別講演 c】

「中部山岳国立公園南部地域の魅力と課題」

大坪三好氏(環境省松本自然環境事務所所長)

レポート課題

「自然環境の保全のあり方について、具体的な例を挙げて述べよ。」

う〜ん、いずれも手強い課題ですね。

まあ、何かしら書けるかなという感じもしますが、初めてのレポートにしては、取り組みにくいテーマのような気がします。

そのほか、同日に開催されていた「信州大学地域連携フォーラム2008」を参観してその中からテーマを選び、感想を書く。なんて課題も出されていました。このフォーラムは理学部主催のポスター発表会とパネルディスカッションで、私も見に行ってきましたが、内容的に大変高度でほとんど理解できませんでした。

そんな3つのレポートの締め切りはなんと今週末の諏訪湖実習まで! つまり1週間しかないわけで、鬼のような佐藤先生! 私が第3コース受講生ならもうこの時点で脱落かと思われる。更にはその諏訪湖実習の後には「花里レポート」が控えているわけで、全く息が抜けない日々が続くことになりそうですね。

あ〜、私は第2コースでよかった。

講演を聞いていて思ったのですが、やはり野次馬で話を聞いていても全く身に着きませんね。自分のマイスター講座が終了して、緊張感のない日々を送っていますが、せつかく充実した3ヶ月を過ごしたのに、このところすっかり緩んでしまっています。もう一度マイスター講座を受講するほどの気力はありませんが、また別の機会を見つけて緊張感を持った生活をしなければと強く思いました。

以上、開講式&講演会レポートでした。(文責 竹脇・10.12)

地球温暖化問題その2

試作号の続きを披露し、戸田先生からのご返事でひとまず締めくくりとしよう。いずれ、戸田先生のお話を聞く機会があることを期待しましょう。

● 三浦マイスターの意見

大洞様のメールに触発されて、竹脇様紹介のロンポルグ本の概要にアクセスし、プリントアウトしてじっくり読んでみました。(18 ページ)大変面白いですね。猫も杓子も温暖化防止と騒いでいる昨今、こんな見方もあるのかと感心しました。

環境破壊の本や、ゴアの「不都合な真実」を映画見て、ただ、大変なことだ、人間のいや地球の未来のために何とかしなくてはと思っていました。自分一人が出来事は知れているが、山火事の火を消そうと、ひたすら水を運んだ「ハチドリ一滴」のように、今、出来ることから少しでも意識を持ってチャレンジしようとする地球温暖化防止活動推進委員や環境ウオッチャーを勤めています。

自然環境診断マイスターとして、環境破壊について正しい状況の判断をし、適切な対応しなければと思っています。もっとも勉強しなければならないでしょう。

戸田先生の地球温暖化の要因が二酸化炭素が主犯ではない、という見解は大変興味があります。是非講義を聴きたいです。大洞さんの意見のように、本当に二酸化炭素が主犯で無いとすると、防止活動の根本が違ってきますので大変なことだと思います。皆様のご意見を伺いたいと思います。(8.23)

注:大洞マイスターは CO₂ が主犯でないとは言っておりません。(編集部)



コスモス

三浦方也マイスター・作画・提供



● 竹脇マイスターが戸田先生から頂いた返答です。

現在の温暖化論争の盛り上がり、一応、戸田先生に報告と思い、これまでの経過を先生にお知らせしましたところ、下記のようなご返答をいただきました。

内容的に、皆さまにお知らせしても差し支えないと思いますので転記いたします。

戸田先生のご返答

長文のメールをありがとうございます。なんだか、空恐ろしい状況 になっていますね。

小生の部分に関しては、「炭素循環」の“大家”の部分を除けば、主旨は正しく理解されているようです。また、水蒸気は主役ですが、主犯ではなく、増幅器のような役割を担っているように小生は考えています。

小生も天邪鬼的なところがあって、主流にしばしば批判的なのですが、批判ばかりでは建設的ではありません。今年前期の授業でも、地球温暖化対策として、最後にオーソドックスですが、人口制御が根本的解決策であると提案しました。機会があれば、有志の方々とも一度議論を交わしてみたい気もします(怖いですが)。

戸田@信州大(8.26)

● マイスターつばきコーナー

マイスターがこんなこと、あんなことをつばきやっています。
ちょっと、聞いてみましょう。

- 藤森さんのつばき(藤森さんは第二コースのホープですが、スケジュールの都合で一講座を残し、たぐいまる留年中です)

皆さま

いつものことながら、期日が迫る取組みをしております、藤森です。

それでも、お役を引き受けてくださって今後を話し合ってくださいという皆さま、機関誌をご配慮くださる池田さん、そして西澤さんがブルゾンのデザインをしてくださっていたり、三浦さんの仰山塾の立ち上げをお伺いしたりするにつけ、自分は何もせずに、情報を教えてください、と言っているだけというのも、忸怩たるものがありましたし、その上、仰山塾を迎山塾、と打ち間違えたり、英語のスペルの間違い頻度も高くなってきたことから(三浦さん、西澤さん、すみません)、時には、気分を換えて市民環境講座「霧ヶ峰の保護活動について」を受講してまいりました。

西川さんのご発表をお聴きして、改めて関心を寄せることになっていた霧ヶ峰は、家からほんの20分ほどですが、「灯台もとくらし」のとおり、子どもをスキーとかマレットに連れていく以外には、滅多に行くことはありませんでしたので、花を愛でたのは、9年ぶりくらいでした。年間で平均282日は霧がかかるという霧ヶ峰ですが、天候にも恵まれ、富士山も眺望できる日で、こんなに美しいところだったのか、と認識も新たにしました。この時期ですと、マツムシソウ・トモエシオガマ・ウスユキソウ・ネジリバナ(ネジバナ、モジズリともいう)などが可憐で、その他、様々な種類の花盛りでした。コースは県自然保護センターから車山肩、ピーナスの丘を巡るもの(橋住さんにトレイルとしてどうなのか、ご評価いただけたら、と思いましたが)、講師としては、県自然環境インストラクターの三村宏司さんが、視察の先導に立ってくださいました。植物・動物・地質学・歴史文化の知識が豊富で、しかも、「綾小路きみまろ」級のユーモア(時に爆笑を呼ぶブラックユーモア)にあふれる宮下さんのような話術で、何度笑わせていただけたことかわかりません。お教えいただいた内容はマイスターの総ざらいのようで、大いに勉強になりました。(ノアザミとノハラアザミ、ズミとエゾノコリンゴ、ヤマホタルブクロとホタルブクロ、が見分けられるように)

そして、車山肩では、前日20日に設置されたばかりの、地元新聞の1面にも載った、話題のトイレが!!!これは瀧澤さんはじめ、皆さまにご報告したいと思い、利用をしてみました。まだ都市部は夏休み期間中ですから、観光客も多く、家族連れや、研修の団体もあり、設置して僅か2日目であるというのに、利用数が非常に高いことが窺われました。今後、清掃に関しては、大きな課題となると思いましたが、長年の要望が通り、利害関係が難しい中、テストにこぎつけた、ということは評価できる営みだと思えます。ドアに利用がカウントされていくシステムが組み込まれているということですので、お出かけの際には、お立ち寄りください。

<http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=11663>

竹脇さんのご提案のそれこそ有志で勉強会をして(戸田先生を囲んで)は、大変、勉強になりそうです。懇切丁寧にお教えくださったことが思い返されます。受講させていただけるとすれば、私はマイスター受講時のような予習復習が不十分なままでは、ついていけそうにありませんので、今度こそ、予習復習をしないと、と思えます。竹脇さんの何分の一かでも、書籍や論文を読んでいきたいものです。(8.22) 藤森 拝

● 行事予定・お知らせなど

これから年末にかけては、今のところこんな予定・お知らせがあります。忙しい時期ですが、行事には出来るだけ参加しましょう。きっと得るものがありますよ。



1.11月15日:第二コース(こだまネット)主催・霧ヶ峰シカ食害状況調査及び勉強会

2.県出前講座情報は、大洞マイスター10月10日メールを参照してください。

3.西澤マイスターデザインの仮称「認定証」、「名刺」は後日、佐藤先生が学長と相談の上決定します。

4.広報関係

・中野マイスターの娘さんが㈱プラトルという、ホームページ企画・マーケティング会社の Staff・Blog に、自然環境診断マイスターの紹介記事を書かせてくれています。(三浦マイスターからの情報です。9月9日)まだご覧になっていない方は、下記にアクセスしてください。

<http://www.prartweb.com/blog/nakano/2008/08/in.php>

・10月4~5日の遠山郷勉強会の様子は、地元新聞「南信州新聞」で紹介されました。(これも、三浦マイスターからの情報です。)10月9日着の三浦マイスターのメール・添付ファイルをごらんください。

5.マイスターの帽子と腕章

・自然環境診断マイスター養成事務局・事業部長 佐藤先生から、10月4~5日の南信濃勉強会の際「名称入りの帽子」と腕章を参加マイスターに頂きました。おおいに活用しましょう。

6.マイスター養成事務局及び、しんリンク会長、副会長は、各マイスターのさらなる活発な自主活動を期待しております。もちろん、目的を同じくする者同志で分科会など小グループによる活動も推奨しております。マイスターの皆様、期待しております。

編集後記

山の上から紅葉がおり始め、里では稲刈りも進み、いよいよ秋本番です。マイスターは、第一第二コース

合同勉強会が済み、次は、第二コース主催の11月15日、霧ヶ峰の研修です。

リーダーの方達は、休む暇なくがんばって準備されています。ご苦労様です。

各マイスターの皆さんもこれに応え、出来るだけ参加しましょう。自らの研鑽になりますので。



10月11日には、第三コースの開校式があり、スタートしたようです。(7面・竹脇レポート参照)本号は、行事がいくつかあり、少し盛りだくさんになってしまいましたが、ようやく創刊にこぎつけることができました。今後さらに充実したものが出せ、各マイスターのお役にたち、認知度アップに繋がって行けることを目標にしております。そのためにも、皆様のご意見、ご協力をお願いする次第です。(編集担当:池田) 第2号は、12月の予定。